

平成27年2月

誕生日には何故ケーキでお祝いのするか

2月3日の節分の日には豆撒きをしていますが、この頃恵方巻も食べるおにぎりもありました。お客様の奴寿司さんが1月中に担当の辻野を通じて注文をとってくださり、2月14日はバレンタインデーです。義理チョコを今年も何個か頂きます。恵方巻もチョコレートも何故買うのでしょうか。業者が仕掛けているのですが、我々消費者が買う習慣に存っているから存のです。疑問を持たずに買われる商品は売れ残りが、業者は売れるので儲かるのですが、その日だけ社員に過大な負担を強いることになり、母の日のカーネーションも同じです。ところが、誕生日には家族でケーキに蝋燭を灯してお祝いします。誕生日はバラバラですが、毎日ケーキが売れます。予約をとれば顧客リストが作成できます。クリスマスだけの商品ではありません。誕生日にケーキでお祝いをしようと日本で最初に始めたのは不二家さんだかです。誕生日ビジネスは毎日商品が売れ顧客リストが作れるうえに、新たな市場を創造できます。私は自分の誕生日に親孝行する「親孝行の日」を日本中に広めようかと思っております。例えばお母さんに「生んでくれてありがとう」というメッセージをつけてバラの花を買ったり、人は習慣によって物を買ったり、行動するものです。お客様は何故うちの商品を買われるか、何を教えるか、お客様に繰り返し買って頂けると、お客様は買う習慣になり、その商品以外買われなくなるのは、熱心な固定客になり、宣伝もしてくれ、儲かります。

習慣によって、人の行動や考え、モチベーションは変わりますから、よい社風を作るのは、よい習慣を身につければよいわけですね。古田土会計の経営計画書の表紙の裏に「幸せの樹(良樹細根)」というのがあります。相田みづをさんの「花を支える枝、枝を支える幹、幹を支える根、根はみえぬんだなあ」という書を参考に、木と枝と根を図にしました。根には、親孝行、環境整備、読書、笑顔、礼儀、挨拶と書きました。家庭でも会社でも、これらのことに本気で取り組み、立派な人間に育つのは存りでしょうか。古田土会計では、これらのことを毎日繰り返して習慣にして「よい社風」にしようとして努力しています。大きく立派に育つ樹は、沃山の根によって支えられ、よい土壌に存っています。美しい花を咲かせ、おいしい果実をつけるのも根のことと土壌次第です。

多くの会社でお客様満足、社員満足が大事だと言っています。お客様満足も社員満足も花であり、果実です。しかし、根のことや土壌が、売上拡大や利益の追求を目的とし、その手段として、社員の給料や人事制度等の動機づけであつたならば、お客様も社員も大切にしている経営をいっているとは言えないと思っております。社員もお客様も幸せになると思えません。私達中小企業は、大企業に比べて人・物・金、全て不足しています。しかし、全産業のうち製造業は10%です。90%はサービス業です。物と金はなくても人がいればいくつでもよい商品の企画や販売ができます。働いてくれている社員の根のことや土壌が習慣化され、会社の理念・ビジョンにほれこみ、お客様に喜んでいただく、感謝してもらいたい、ありがとうと言ってもらいたい、という気持ちで仕事をすれば、絶対にお客様は喜んでくださいます。経営のツツはよい習慣をツツツと身につけることです。その一番目は挨拶と掃除の習慣です。特に挨拶は自分と相手と周りまで元気にします。よい習慣を身につけると、人間性が変わり、人生まで変わります。

古田土 満